

エゴマ栽培適性試験（４年目）

1. 目的

帯広市地域における「エゴマ富山早生種」の栽培適性を検証する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品 種：「富山早生種」、比較品種「北海道産種」

(2) 面積および区制：200 m²(1 区 100 m²×2 品種)

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	馬鈴しょ	80cm×30cm	露地直播・べた掛け	5/22

※1 株6粒播き1 本立

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	磷酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 60kg	基肥 5/22	豆用2号 90kg	4.05	18.9	9.0	4.05	無	無

4. 試験結果

(1) 生育季節及び作業内容

	富山早生種	北海道産種
播 種	5/22	5/22
播種粒数	6 粒	6 粒
べたかけ被覆	5/22~6/26	5/22~6/26
出芽期	6/5	6/5
間引き(1 回目)	6/26	6/26
間引き(2 回目)	7/10	7/10
除 草	随 時	随 時
開花始め	8/24	8/28
成熟期(莢黄変 70%)	10/4	10/13
収 穫	10/9	10/16
脱穀・調整	10/28	10/30

播種後の好天により出芽は良好であった。べた掛け終了後の6月26日に1回目の間引きを行った。6月中旬以降の日照不足により生育が一時停滞したが、その後は回復し順調に推移した。初期生育は7月上旬まで北海道産種と富山早生種の差はほとんどみられなかった。その後、富山早生種の生育が北海道産種をやや上回って経過した。

開花始めは富山早生種8月24日、北海道産種8月28日で、富山早生種が4日早く、成熟期は富山早生種10月4日、北海道産種10月13日で、富山早生種が9日早かった。

7月26日生育調査では両品種にほとんど差がなかったが、9月9日調査では富山早生種が草丈は高かった。

表 生育調査結果

調査日	項目	富山早生種	北海道産種
7/26	草丈(cm)	51.6	50.3
	葉数(枚)	15.8	15.4
9/9	草丈(cm)	140.4	135.8
	葉数(枚)	24.6	25.0

(2) 収量調査

成熟期の早い富山早生種は10月9日に、成熟期の遅い北海道産種は10月16日に刈り取りを行い、ガラス室で乾燥させた後、脱穀調整は富山早生種が10月28日に、北海道産種は10月30日に行った。10a当たり製品収量は富山早生種が48.6kg、北海道産種が113.6kgで、北海道産種が多収であった。

表 収量調査結果

項目	富山早生種	北海道産種
製品収量(kg/10a)	48.6	113.6

5. 考察

本年6月中旬～7月中旬まで日照不足の気象条件のもと、富山早生種は北海道産種より開花期、成熟期ともに早かったが、着莢数はやや少ないようにみられた。また、製品収量は富山早生種が北海道産種の半分以下と少なかった。

富山早生種の開花期頃の最高気温・平気気温が平年よりかなり低く、飛来する蜂の数も非常に少なかった。一方、北海道産の開花期頃の気温は平年より高く、蜂の飛来数も多かった。両区の開花期頃の気温差が開花・受粉・着莢及びその後の登熟に大きく影響があったものと推察される。

エゴマ栽培の経過



5.22 播種



6.14 出芽時のべた掛け状況



6.26 第1回目の間引き



7.25 初期生育
左：北海道産種 右：富山早生種



8.5 生育状況
左：北海道産種 右：富山早生種



9.10 生育状況



10.8 両品種の成熟状況の違い
左：北海道産種 右：富山早生種



10.8 富山早生種刈り取り



10.28 脱穀調整